

決算説明会用資料

2010年度 第2四半期決算

(2010年4月1日～2010年9月30日)

2010年11月1日(月)

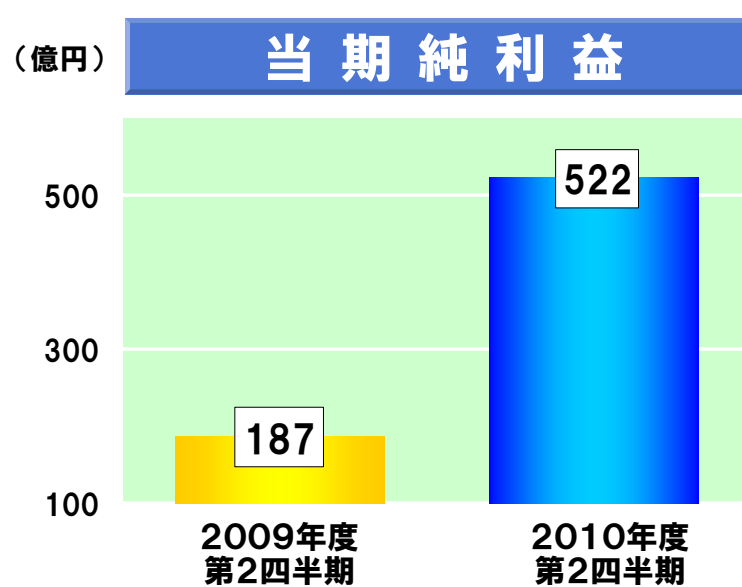
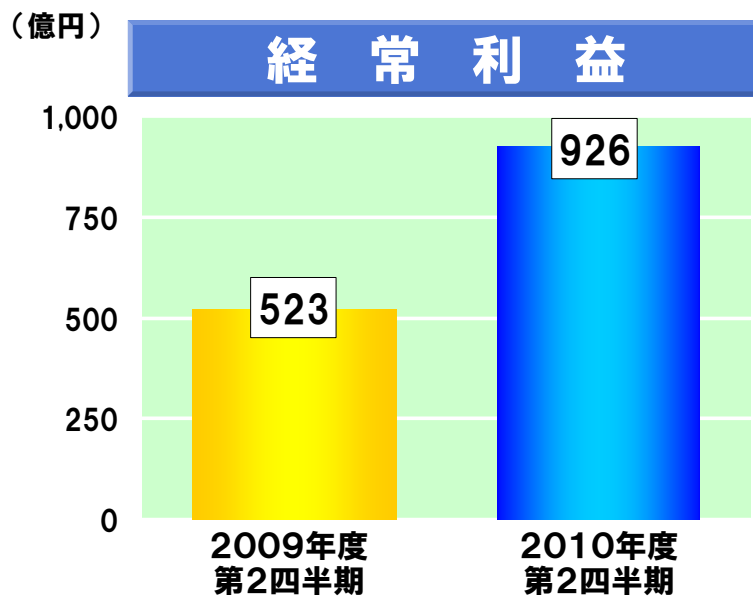
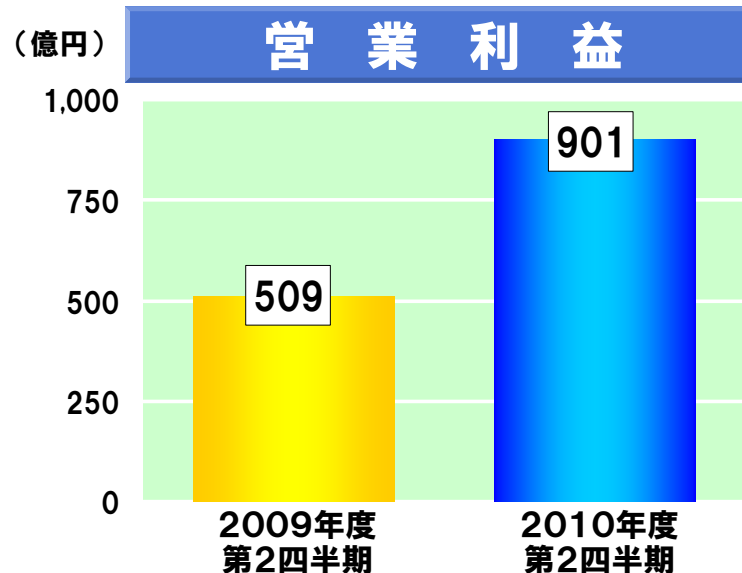
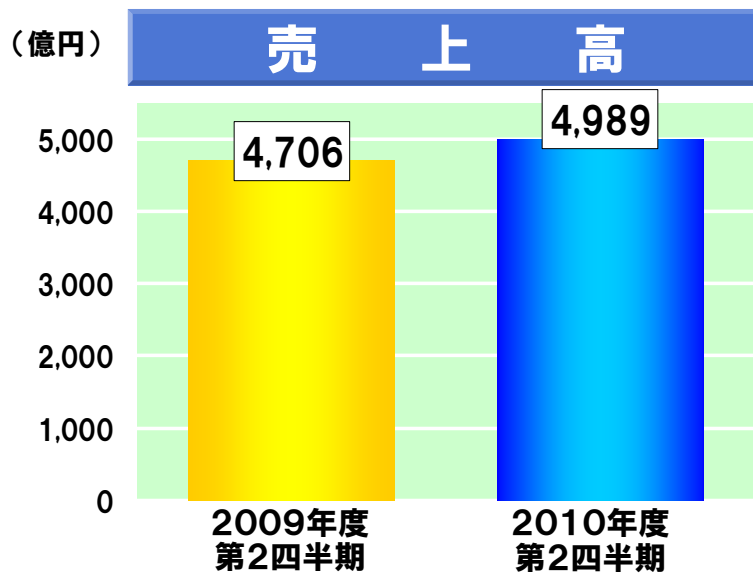
代表取締役社長 兼 CEO 中山 讓治



第一三共株式会社

業績概要

2010年度 第2四半期 実績の概要



2010年度 第2四半期 実績の概要 -前年同期との比較-

	2009年度 第2四半期 実績 ①	2010年度 第2四半期 実績 ②	増減 ②-①
売上高	100.0% 4,706	100.0% 4,989	283
売上原価	29.2% 1,372	27.8% 1,385	12
販管費	40.0% 1,884	36.3% 1,810	-74
研究開発費	20.0% 941	17.9% 893	-48
販管費計	60.0% 2,825	54.2% 2,703	-122
営業利益	10.8% 509	18.1% 901	393
経常利益	11.1% 523	18.6% 926	404
当期純利益	4.0% 187	10.5% 522	335

(単位 億円 金額上段は対売上高構成比)

2009年度 第2四半期実績	2010年度 第2四半期実績	増減 ④-③
Ranbaxy社 1-6月 ③	Ranbaxy社 1-6月 ④	
100.0% 661	100.0% 987	325
57.7% 375	39.8% 392	17
41.3% 266	27.5% 271	6
6.7% 44	6.4% 64	19
48.4% 310	33.9% 335	25
-3.6% -24	26.3% 259	283
-79.2% -33	29.6% 292	325
-57.0% -27	23.2% 229	256

*ランバクシー社の実績値は、連結調整前の数値

1. 売上高 4,989億円 (+283億円, +6.0%)

■ 増収要因:

- ランバクシー社 バラシクロビルなどの寄与、(+324億円)
- オルメサルタン(+62億円)、ロキソニン(+32億円)
- デノスマブ欧州承認に伴う一時金

■ 減収要因:(為替影響分 約-140億円)

- レボフロキサシン(-94億円)
- プラバスタチン(-60億円)

2. 営業利益 901億円 (+393億円, +77.2%)

■ 増益要因:(売上高増と販管費の減少)

- ランバクシー社寄与分(+283億円)
 - 販管費(+25億円)
- 第一三共寄与分(+102億円)
 - 販管費(-138億円)
- 連結調整等の影響(+7億円)

3. 経常利益 926億円 (+404億円, +77.3%)

■ 営業外収益:

- ランバクシー社 デリバティブ評価益等 (-29億円)

■ 営業外費用:

- ランバクシー社 為替差損等 (-71億円)

4. 当期純利益 522億円 (+335億円, +179.0%)

■ 特別利益: (+52億円)

- 固定資産売却益、投資有価証券売却益等

■ 特別損失: (+51億円)

- 投資有価証券評価損等

■ 法人税等: (-20億円)

■ 少数株主損益: (+90億円) …ランバクシー社に関わる少数株主持分(約36%)

2010年度 第2四半期 実績の概要 -第2四半期予想との比較-

(単位：億円, 金額上段は対売上高構成比)

	2010年度 業績		
	第2四半期 予想 ①	第2四半期 実績 ②	差異 ②-①
売上高	100.0% 4,950	100.0% 4,989	39
売上原価	28.1% 1,390	27.8% 1,385	-5
販管費	38.2% 1,890	36.3% 1,810	-80
研究開発費	19.6% 970	17.9% 893	-77
販管費計	57.8% 2,860	54.2% 2,703	-157
営業利益	14.1% 700	18.1% 901	201
経常利益	14.1% 700	18.6% 926	226
当期純利益	6.7% 330	10.5% 522	192

業績予想修正について

(単位：億円)

	2010年度 予想(8月) ①	2010年度 修正予想 ②	増減 ②-①	主な要因
売上高	100.0% 9,800	100.0% 9,800	0	・プラス要因：+180 ランバクシー社、LPI等の売上増 ・マイナス要因：-180 為替影響
売上原価	29.6% 2,900	29.8% 2,920	20	・為替影響：-20 ・販売数量増加に伴う原価増：+40
販管費	39.8% 3,900	38.6% 3,780	-120	・為替影響：-90 ・費用圧縮：-30
研究開発費	21.4% 2,100	21.4% 2,100	0	・為替影響：-50 ・費用圧縮等：-30
販売管理費計	61.2% 6,000	60.0% 5,880	-120	
営業利益	9.2% 900	10.2% 1,000	100	
経常利益	8.7% 850	10.2% 1,000	150	
当期純利益	4.6% 450	5.6% 550	100	



日本

- 日本カンパニーによる、イノベティブ医薬品、エスタブリッシュト医薬品、ワクチン事業の強化・拡大

米国

- 売上目標：35億ドルの達成
- 医薬品市場シェア1%の獲得

ハイブリッド
ビジネス

欧州

- 売上目標：12億ユーロ への挑戦

ASCA*

- 売上目標：1,500億円以上
- 日米欧を上回る事業成長率 -

* 日米欧以外の国・地域を表す社内用語

■ イノベーター医薬品： 新製品の最大化

2010年度 国内医療用医薬品 新製品

レザルタス	<高血圧症治療剤>	2010年4月16日	発売
ロキソニンゲル	<消炎鎮痛解熱剤>	2010年10月5日	発売
イナビル	<抗インフルエンザウイルス薬>	2010年10月19日	発売
クラビット注	<合成抗菌剤>	2010年10月27日	承認

国内申請中

メマンチン	<アルツハイマー型認知症治療剤>	2010年2月5日	申請
エドキサバン	<経口抗Xa薬> 術後静脈血栓塞栓症 予防適応	2010年3月29日	申請
デノスマブ	<抗RANKL抗体> 癌骨転移	2010年8月24日	申請

国内製品導入

エソメプラゾール	<プロトンポンプ阻害剤>
----------	--------------

■ エスタブリッシュト医薬品

■ 第一三共エスファ株式会社 営業開始（2010年10月1日）

- ・全国12エリアの営業体制、MR 約70名
- ・製品： 第一三共からの承継・販売元変更品 7成分19品目
ジェネリック医薬品 24成分43品目
- ・初年度 売上目標： 約50億円（2010年10月～2011年3月、ジェネリック医薬品＋長期収載医薬品）



・2015年ジェネリック医薬品市場シェア 5%、500億円目指す

■ ワクチン事業

■ ワクチン事業本格化への基盤構築

北里第一三共ワクチン株式会社 設立に関する基本合意（2010年7月30日）

ワクチン事業開発のための重要な中核機能(製造・研究開発機能)

- ・ 2010年11月下旬(予定):確定契約書 締結
- ・ 2011年 4月 1日(予定):会社 設立、事業開始

■ 2010年度(予定): MR(麻疹・風疹)ワクチン 販売

主要事業会社別業績状況

(単位：億円)

	2010年度 売上高		
	第2四半期 実績 ①	年度予想 ②	進捗率 ①/②
国内医療用医薬品	2,083	4,150	50.2%
第一三共ヘルスケア	210	485	43.3%
第一三共Inc.(米国)	675	1,450	46.5%
ルイトポルド ファーマシューティカルズInc.(米国)	284	470	60.5%
第一三共ヨーロッパGmbH(欧州)	314	755	41.6%
アジア/中南米(ASCA)	130	280	46.4%
ランバクシー・ラボラトリーズLtd.	985	1,650	59.7%

*事業会社別の業績予想修正は行っておりません。

主要製品の状況

(単位：億円)

		2010年度 売上高				
		第2四半期実績	進捗率*1	対前年同期比較	年度予想	対前年同期比較
GLOBAL	オルメサルタン <高血圧症治療剤>	1,216	48.2%	62	2,600	217
	レボフロキサシン <合成抗菌剤>	339	48.9%	-94	700	-172
	プラバスタチン <高コレステロール血症治療剤>	237	54.3%	-60	440	-110
	プラスグレル*2 <抗血小板剤> * 共同販促収入	18	-	-	-	-
日本	カルブロク <高血圧症治療剤>	72	51.4%	2	140	3
	アーチスト <高血圧症治療剤>	120	53.2%	0	225	-8
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	70	54.0%	2	130	-3
	ロキソニン <消炎鎮痛解熱剤>	269	52.7%	32	510	40
	オムニパーク <造影剤>	130	56.6%	-17	230	-43
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	49	42.8%	5	115	25
米国	ヴェノファー <貧血治療剤>	161	60.5%	0	270	-52
	ウェルコール <高コレステロール血症治療剤 /2型糖尿病治療剤>	144	51.0%	10	285	10

*1 グローバル品目及び海外品目の進捗率は現地通貨ベースで示しております。

*2 プラスグレルの共同販促収入に関する業績予想は開示しておりません。

*3 製品別の業績予想修正は行っておりません。

研究開発パイプラインの状況

研究開発パイプラインの変化(7月以降)

■ ステージの進捗

● 申請中→承認

- CS-8958 (ラニナミビル/治療)(日)

抗インフルエンザウイルス薬 ※販売名:イナビル®吸入粉末剤20mg

- レボフロキサシン注(日)

ニューキノロン剤 ※販売名:クラビット®点滴静注バッグ500mg/100mL・点滴静注500mg/20mL

● P3→承認申請

- AMG 162 (デノスマブ/癌骨転移)(日)

● P2→P3

- AMG 162 (デノスマブ/乳癌補助療法)(日)

- DD-723-B (ペルフルブタン/超音波造影剤)(日)

● P1→P2

- U3-1287 (抗HER3抗体)(米/欧)

- CS-1008 (抗DR5抗体)(日)

● P1入り

- DS-5565 (慢性疼痛治療剤)

主要開発品目一覧表

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請中
循環器	・DB-772d		・プラスグレル (ACS-MM) ・エドキサバン (AF/VTE)	・エドキサバン (日) ・CS-8635 (欧)
糖尿病		・CS-1036		
がん		・ARQ 197 ・Tigatuzumab ・CS-7017 ・ニモツズマブ (#) ・U3-1287		
感染症	・CS-4771 ・DS-8587		・ラニナミビル	
骨・関節				・デノスマブ (日)
免疫・アレルギー	・CS-0777	・SUN13834		
その他	・DS-5565		・ヒトグレリン ・DD-723-B (#)	・シロドシン (中国) ・メマンチン (日)

- ・ グローバル (日本以外) で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載
- ・ #: 日本のみの開発

ご参考:2010年度 第一三共主催 主要イベント予定

内容	日付
ランバクシー社 2010年度第3四半期決算	2010年11月11日(木)
R&D説明会	2010年12月10日(金) 9:30~ 於:経団連会館
2010年度第3四半期決算	2011年1月31日(月)開示、並びにカンファレンスコール

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)

FAX: 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社